

平成25年度利用者懇談会要点録（報告）

日 時： 平成26年2月15日（土）午後6時から8時

場 所： 永山図書館

出席者： 利用者3名、図書館長、企画運営係長、子ども読書支援係長、地域資料係長、サービス担当係長、永山図書館長、企画運営係広報担当（書記）

-
1. 図書館長挨拶
 2. 各職員紹介
 3. 意見交換

図書館長挨拶：今回は利用者の方に話を伺い、利用者の方同士が話を聞く機会を作らせていただいた。開館時間や図書館のサービスまたはその他要望、また図書館に対して何か聞きたいことがあったら出していただくようお願いしたい。

意見交換（主なもの）

利用者：「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」で図書館が統廃合されるのは既成事実なのか。また、司書の割合について今後増やしていく予定があるのか

利用者：施設があっても、職員がいるより自動で貸出ができた方がよいのではないか。ハードはあってもいいが、維持・管理していくのは大変だと思う。多摩市の図書館については、市内の図書館であればどこで返却してもいいところが便利でよいと思う。

利用者：最終的には本を媒介として人と人との関係が一番大事なのではないかと思う。また、行政資料室についてはもう少し使いやすくしてほしい。行政の資料について詳しくないせいかもしれないが、資料を探しづらい。

図書館長：公共施設の適正配置について、図書館については今現在7館（行政資料室を含めると7館1分室）ある図書館を駅前に集約させて、小規模図書館については廃止する方向である。多摩市立図書館本館については10年間の暫定使用ということで、平成20年に今の学校跡地に移転した。今後どうするかについて「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」の中で、元管路収集センターを有効活用しそこへの移転を考えている。

利用者：中央図書館をつくるのには反対はない。大きな図書館に資料がまとまってあった方が勉強しやすい。

利用者：図書館を駅前の3館に集約させることについては反対である。高齢化に伴いま

すます図書館を利用したい人が増えてくると思うので、ある程度身近に図書館があつてほしい。施設を利用してゆっくり過ごしたいと思う人もいるだろうし、趣味を深めたい人もいると思う。サービスを縮小するにせよ、図書館自体は残して欲しい。図書館に出かけて棚を見ることで色々と気づくこともあると思う。

図書館長：現在の多摩市の財政では、図書館を増やしていくことは難しい。施設を維持・管理してだけでも大きな負担となつてきている。今までは、7館に分散して図書館を配置してきたが、「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」において、3館に集約するよう転換をはかっている。運営についても変更していくことになるので、その点をよく利用者からご質問される。現在の図書館の利用状況は、図書館ごとに違いがあるが、共通して言えることは、どの図書館もほとんどが、日本の小説、家政学、外国の小説、旅行書、医学書（特に健康関係）で貸出資料の6割を占めている。利用実態に応じた図書館の在り方を考えると、本館を整備するとき他の館との差別化をはかることが必要であると考えている。もう一つ、共通していることが、図書館の中で長時間利用されるのが新聞や雑誌のコーナーである。唐木田図書館と聖ヶ丘図書館については図書館の外にそのコーナーがあり、そこはいつも利用者でいっぱいである。図書館の中にも閲覧席が別に用意されているのだが、そこに新聞や雑誌を持ち込んで見ている利用者の数は少ない。今後、図書館が管理するか、コミュニティセンターが管理するのは別にして、新聞や雑誌のコーナーが残っていれば使い勝手は悪くならないのではないかという意見もある。このように、利用の仕方、イメージされる図書館像が人それぞれによって違っている。絵本を読んでいる親子連れの利用者にとっては楽しく絵本が見られて会話ができる場所が求める図書館像かもしれないが、勉強したい人にとってはそれはマナー違反ではないかといったことにもなる。どういう風に両者の共存をはかっていくのか。図書館を理解してもらうために、今回のような懇談会を開催して意見交換をすることは利用者にとって、とても刺激的なものだと思う。

利用者：図書館ごとに異なる機能を持たせたり、近隣の市と協力して機能分担していく必要があるのではないか

図書館長：近隣の市との図書館の広域化について構想は出るもののなかなか実現には至っていない。

利用者：学校図書館を図書館としてもっと有効活用できないか

図書館長：学校の授業のための本を置いているのが学校図書館なので、一般の方の利用には向かないと思うが、読書をするための場としては学校図書館も含めて色々な場所が可能かと思う。

利用者 : 移動図書館を復活してほしい

図書館長 : 移動図書館については、平成16年に廃止した。以前は、2週に1回30分ほど各所に出向いていたが、雨が降れば運行を中止していた。移動図書館は利便性の面においても制約があり、復活することについては現実的な対応としては難しいのではないかと思う。

利用者 : 職員の名前をなかなか覚えられない。忙しいせいなのか事務的にやっているように見えて親しみを持ってない。

利用者 : レファレンスについて、職員の対応が他市に比べて思いやりいが感じられない気がする。ただ、以前住んでいた市と比べて、多摩市内の図書館利用者から寄せられる相談の内容が違っているせいなのかもしれないが。

利用者 : 実際、窓口立つ職員が正規の職員ではないところが多いかと思うが、きめ細やかなきちんとした対応をするためには、権限が与えられていないといけないと思う。

図書館長 : 窓口では、自分でできるのはここまでというのがよく分かっていないと良いサービスはできないので、研修に努めたい。

利用者 : 他市の図書館ではレファレンス中に雑談をすることもあったが、多摩市の図書館ではレファレンスをする際に忙しいせいか雑談をしている余裕がないように感じられる。

図書館長 : 確かにカウンターでは利用者が後ろに並んでいたりすると相談自体しづらかったりすることもあるかと思う。質問しやすい場はカウンターではなく実際に書棚のあるフロアである気もする。ベテランの職員が能力を発揮するにはしくみをかえる必要があるのではないかと思う。

利用者 : 平日の夜は目にする職員の数が少ない気がするが、市の職員の人数を減らしている波及効果が図書館に影響を与えているのではないか。

図書館長 : 全市的にみても図書館職員が少ないわけではない。平日の夜間に勤務する職員数は以前と比べて大きな変更はない。

利用者 : 本屋大賞のように職員が見た本の紹介や、どんな本が図書館で読まれているのかなど、広報としてやっていることはあるのか

図書館長 : ちょうど今、『私の薦める本! TAMAICHI 2013 in 多摩市立図書館』という企画が終わったところで、利用者から応募頂いたアンケートを集計し、そこから作成したパンフレットの配布を各館で行っている。

永山図書館長：やまばと通信で職員のオススメの本を掲載したことはある。また、図書館の公式ホームページにベストリーダーがある。

利用者：できれば本が好きで好きで仕方がないという方に図書館職員になってほしい。

図書館長：人事異動の関係や研修が必ずしも行き届いているとは言えないが、職員の意識を高めるために、毎朝朝礼で基本方針・運営方針を読むことにしている。今後は方針の具体化について考えていく必要がある。

利用者：多摩市の図書館について利用していて忙しく感じるのはリクエストの件数が他市に比べてずばぬけて多いからではないだろうか

図書館長：貸出に対するリクエストの件数の割合は他市に比べてそこまでは多くない。予約やリクエストの処理に事務的な手間がかかっていることは確かだが、予約やリクエストの申込件数については20件を上限にしている。また、貸出件数については多摩市在住・在勤の方については無制限にしているが、利用者が一度に借りる冊数については大体10冊以内におさまっている。

図書館長挨拶：本日は雪の中、お越しいただき、貴重なご意見をありがとうございました。今後とも図書館をどうぞよろしくお願ひ致します。